

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人浜松医科大学

1 全体評価

浜松医科大学は、優れた臨床医と独創力に富む研究者の養成、独創的研究及び新しい医療技術の開発の推進並びに患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たすことにより人類の健康と福祉に貢献することを目指している。第3期中期目標期間においては、地域社会に貢献できる医師・看護専門職の養成及び世界に発信できる研究者の育成、光技術と他の先進的技術の融合による新しい医療技術の開発推進、地域医療の中核病院として高度で安心・安全な医療の提供及び地域社会のニーズと個々の病院機能に応じた医療ネットワークの構築による地域医療の充実、光技術等を活用した特色ある研究を基盤とした実用化開発の推進等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、産学連携・知財活用推進センターを発足し、知財の活用と共同研究、受託研究を一体として産学連携を推進する体制を整備するとともに、静岡大学との大学院共同教育課程光医工学専攻において、光医学と光・電子技術の融合分野で博士(光医工学)の学位を授与する大学院教育を開始するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について)

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

知財活用推進本部と光先端医学教育研究センター産学連携推進部を統合し、産学連携・知財活用推進センターを発足し、知財の活用と共同研究、受託研究を一体として産学連携を推進する体制を整備している。また、センター内に、知財の取扱いや共同研究、受託研究の戦略を立案する産学連携・知財活用ミーティング会議を設置し、具体的な戦略立案やコーディネーターとの情報共有の場として機能するとともに、医工連携拠点棟にナノスーツ開発研究部が移転し、拠点棟内の先進機器共用推進部との密接な連携による実用化を目指す体制が構築されている。さらに、拠点棟内に浜松地域の大学、金融機関からのコーディネーターの席を設け、これまで以上に地域との密接な連携関係のもとで産学連携をさらに強化する体制となっている。(ユニット「光医学教育研究拠点形成事業」に関する取組)

2 項目別評価

< 評価結果の概況 >

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化						
(2) 財務内容の改善						
(3) 自己点検・評価及び情報提供						
(4) その他業務運営						

. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

組織運営の改善 教育研究組織の見直し 事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

女性管理職登用の取組

女性の管理職登用の機会を拡大させるため、大学組織の管理職体系について、管理する職員数、所掌する業務内容に基づき検討し、附属病院看護部職員(約800名)の管理・運営体制を、管理職1名から5名の体制に変更した結果、女性管理職の比率が平成30年度の10.5%から令和元年度は27.3%と過去最高となっており、中期計画で掲げる目標「15%以上」を大きく上回っている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 経費の抑制 資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

附属図書館改修工事による学修スペースの拡充

附属図書館改修工事により、学修スペースの拡充（附属図書館273㎡拡充、福利施設棟147㎡拡充、計420㎡）を行い、24時間利用できる学修環境とグループ学修に対応できる機能的な環境として機能強化を図っている。また、整備については民間資金（基金）2,000万円（工事及び備品費用）を投入している。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

評価の充実

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

施設設備の整備・活用等 安全管理 法令遵守等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

・教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

産学連携推進の取組

平成27年度の光イメージング研究等に関連する組織の改編統合による光先端医学教育研究センターの設置を皮切りに継続的に研究や産学連携に関わる学内組織の見直しを行っている。令和元年度は、知的財産と産学連携を一元的に扱う組織として産学連携・知財活用推進センターを新設するとともに、文部科学省地域科学技術実証拠点事業により建設した医工連携拠点棟を核とし、棟内に各センターの組織と機能を取り込むことで、新たな研究シーズの創出と機器開発を推進する体制を構築している。

附属病院関係

(教育・研究面)

臨床研究の支援・管理機能の強化

臨床研究ネットワーク「とおとうみ臨床試験ネットワーク」を活用し、治験件数を増やすため、地域基幹病院として臨床研究の支援・管理機能を強化するとともに、シーズ開発や先進医療の獲得のための支援を行う体制を強化することで、新規治験は、企業治験28件と医師主導治験2件の計30件を受託し、目標の20件以上を達成している。

光技術をはじめとする多様な技術を活用した新規イメージング法の創出と実用化に向けた研究開発の推進

特色である光・イメージングとそこから独自に進化させてきた質量分析イメージング、ナノスーツ法を活用する医学研究を進めるとともに、疾患を3本の柱(がん・難治性内科疾患、血管疾患、こころの疾患)に大別し、それらの疾患への医療応用を目指した実証研究を遂行し、令和元年度においては、オキシトシン経鼻剤の有効性を検証する臨床試験を世界で初めて完了するなどの成果を得ている。

(診療面)

診療体制、医療機器等の整備による安心・安全で低侵襲の医療の提供

年間手術件数は昨年度から485件増加し、ロボット手術の件数やハイブリット手術室の稼働状況も順調に増加しており、ロボット支援手術ライセンスのトレーニングで必要な手術見学の術者に大学の医師1名が認定され、ライセンス取得を目指す近隣病院医師の教育機関の機能を果たしている。

(運営面)

新型コロナウイルス感染症対応

厚生労働省からの派遣要請に従い、DMATロジスティックチーム隊が、新型コロナウイルス感染症患者が多数発生したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」で乗客・乗員の救急診療・健康管理を行うなど、新型コロナウイルス感染症に適切に対応している。